

## 会議録

会議の名称	平成25年度第1回西東京市健康づくり推進協議会
開催日時	平成25年7月8日（火曜日） 午後1時15分から
開催場所	西東京市保谷保健福祉総合センター6階 講座室1
出席者	石田会長、内田副会長、橋岡委員、石井委員、小林委員、池田委員、高西委員、高橋委員、田中委員、大堀委員、平田委員
議題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 会長の選任</li> <li>2. 副会長の選任</li> <li>3. 協議会の運営について</li> <li>4. 西東京市健康づくり推進プラン 進行管理について</li> <li>5. 次期西東京市食育推進計画の策定について</li> <li>6. 報告</li> <li>7. 平成25年度がん検診受診率向上支援事業 中間報告について</li> <li>8. 機能訓練事業について</li> <li>9. 保健福祉審議会の報告について</li> <li>10. その他</li> </ol>
会議資料の名称	資料1 西東京市健康づくり推進協議会委員名簿 資料2 西東京市健康づくり推進協議会条例 資料3 西東京市健康づくり推進協議会規則 資料4 西東京市市民参加条例 資料5 西東京市市民参加条例施行規則 資料6 西東京市健康づくり推進協議会傍聴要領 資料7 西東京市情報公開条例 資料8 第2次西東京市健康づくり推進プラン 資料9 西東京市健康づくり推進プラン進行管理表 資料10 (仮称) 第2次西東京市食育推進計画案 資料11 平成25年度がん検診受診率向上支援事業 中間報告 資料12 機能訓練事業「リハビリ教室」の概要
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録      発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会議内容	

## 開会

市長：

西東京市健康づくり推進協議会委員の皆様には、日ごろから保健衛生事業をはじめ市政全般にわたりご理解とご協力を賜り、謝辞。

また、第2次西東京市健康づくり推進プラン策定の際、広くご意見・ご協力をいただいた、石田会長をはじめ歯科医師会や薬剤師会、保健所、学識経験者や市民委員の皆様に改めて御礼申し上げます。

プランの重点的取組みの一つである「食・栄養」に関しては、核家族化による世代間の継承不足や食の変化による心身への影響、食の安全上の問題等が生じている。自身も16年前、都庁で成人保健課長として健康推進プラン21の策定に関わった際、料理学校の先生より食育という観点から、朝食の欠食や食事バランス等の問題についてお話をいただいた経緯がある。

こうした背景より、平成21年3月に現行の「食育推進計画」を策定、以来本協議会での進行管理も今年度が最終年度となった。

本市は平成23年度に健康都市を宣言しており、「食・栄養」の取組み目標の実現性を持たせる計画として、目標・指標を見直す必要がある。本日、協議会にて次期食育推進計画の策定について諮問させていただき、ご審議をお願いしたい。

今任期中の協議会は最後となり、委員の方々には厚く御礼申し上げます。

## 諮問

市長による諮問

西東京市食育推進計画の次期計画策定について

## 議事

次期西東京市食育推進計画の策定について

資料1-1から1-4をもとに食育推進計画の5年間の振り返りと26年度以降に策定までのスケジュールについて事務局より説明。

資料 1-3 施策の体系図（食育推進計画冊子 24・25 ページの抜粋）について

将来像を「食が織りなす、豊かな暮らしのあるまち」とし、3つの基本目標と、それに沿って各ライフステージや分野ごとに項目を設定。右半分は行政の事業や教育現場などで行われている取組みとなっている。

資料 1-1 西東京市食育推進計画 状況調査票について

資料を基に「食育推進の指標」と②の項目について説明

資料 1-2 西東京市「食育に関するアンケート」調査結果報告書（概要版）について

平成24年11月に、市内3小学校の1年生と6年生の保護者594名を対象に実施。今回の結果と5年前に行った同様のアンケート結果を、資料「平成20年から24年までの比較」より説明。現在、結果解析までは至っていないが取組み結果とあわせて外部講師の協力をもとに5年間の評価をまとめていく。

資料 1-4 策定スケジュールについて

資料をもとに説明。健康づくり推進協議会では、10月後半と12月に食育推進計画の次期計画策定案を審議していただき、1月に市長へ答申する予定

審議内容は、計画期間を26年度から30年度までの5年間とした第2次西東京市食育推進計画の策定に向け、国や都の最近の動向を踏まえ、西東京市の食育推進状況により、「施策の体系図」の追加・修正など内容を見直す。

会長：

前回の食育推進計画の際は健康づくり推進協議会で諮問は行われなかったが。

事務局：

前は企画の方で策定を行い、今回は健康課が主管となったため、本協議会で諮問を行い、庁内検討委員会で検討を行う形となった。

会長：

食育は健康づくりの中で重要項目であり、本協議会で検討する必要性はある。

事務局：

プランの策定の際は、策定委員会を複数回設け検討を行ったが、今回は庁内の推進委員会、作業部会と、アドバイザーとして管理栄養士の新出委員にも加わっていただき、具体的な策定作業を進める。これと並行して本協議会で理念の部分をご確認いただき、承認を得たい。

会長：

25年度の策定計画に関して、策定委員会は開かず庁内会議で進行し、本協議会で最終確認するということだが、内容は基本的には変えないということか。

事務局：

資料1-3の施策体系図の右半分については行政の取組みとなっており、5年間経過した後、振り返り変更を行う。左半分については理念となるため、基本目標につながる1-1から1-5といった項目が国や都の施策と相違がないか確認をお願いしたい。

現時点で不足部分と考えているのが、歯科保健の摂食嚥下の分野である。食に関する心、食文化については追加する項目があれば追加していく。

会長：

高齢者の摂食嚥下は黄色1-4の小項目の中に入るのか。主に在宅患者の食生活を入れるということか。

事務局：

乳幼児から高齢者までそれぞれの段階で歯科保健は重要であり、今計画の中にも入っているが、更に8020などの推進運動があるため、黄色の1-5の項目に追加するか、それぞれのステージに加えるかについてご意見をうかがいたい。

委員：

摂食嚥下はまだ効果が見えていない部分もあり、是非追加していただきたい。8020というキャッチフレーズもわかりやすいため、施策に盛り込んでもらえればと思う。

会長 評価を見ると、取組みが効果的に働いていると感じる。横ばいのものに関しては今後の策定の際に変えていくとよい。

委員：

食育とは何かの回答案をお願いしたい。理念と調査の中で基本目標1に入れた方がよい項目がいくつかあると感じる。

事務局：

数を見直す時に検討させていただく。

委員：

近頃、食物アレルギーの問題が深刻化しており、周りの人の知識理解が必要である。これは食の安全の分野に入るのか。

会長：

是非取り入れた方がよい。今回出た意見をもとに庁内推進委員会で進めていただきたい。

第2次西東京市健康づくり推進プラン評価方法について

第2次プランの啓発・周知状況等について資料2-1、2-2をもとに事務局より説明  
広報について（資料2-3）

8月1日号の1面の掲載案を紹介。プランと健康都市宣言の重点的取組みにのっとった「健康把握」「食・栄養」「運動・スポーツ」「こころ・休養」「学び・創造」で構成

今後の周知案について

企画課の出前講座一覧に「西東京市の健康推進プラン」という講座の追加や、健康都市宣言の取組みの一つである他課との協働事業で、プランのチラシを配布して頂く依頼を行う予定  
協働事業の一例として、みどり公園課が行う「みどりの散策路めぐり」事業で健康課職員がミニ講座を実施

評価について

年1回、前年度数値が出た時点で、本協議会で評価をお願いしたい。今年度10月の協議会では24年度分の評価をお願いする予定  
中間評価については平成30年度公表のため、平成29年度に委員会を設置する予定。委員構成は平成24年度に立ち上げた策定委員会のメンバーを想定

会長：

本編はどこに配布するのか。

事務局：

関係機関、議員など。本編は部数が少ないため、情報公開コーナーやインターネットでも閲覧できるようになっている。

会長：

クイズも載っていて面白い。

委員：

出前講座の資料にあるページ番号は何のページなのか。

事務局：

出前講座の資料が冊子になっており、その中に健康と福祉の分野がある。

会長：

もう少し配布した方がよいところはあるか。3800部なので周知するにはなかなか難しい。

委員：

概要版は有効な周知方法だと思う。

会長：

足りない場合は追加送付依頼をしてもよいか。

事務局：

可能な限り行う。

会長：

まずは様々な団体に協力してもらい、周知・浸透させることが大切。それにより評価に結び付く。

委員：

地域包括支援センター等にも配布したか。そこに行けばもらうことができるか。

事務局：

配布は行ったが、各所に3～5部なので、そこから多くの人に配布できる程の量は無い。

委員：

学校でも教員や各家庭に1部程度配布したいが、部数が足りない。

事務局：

市報と共に配布している健康事業ガイドの中にも、抜粋して引用している。

会長：

増刷も検討してもらいたいが、インターネットを閲覧してもらうよう普及を行う必要がある。

事務局：

封筒にロゴを印刷する等も検討する。

## 報告

西東京市がん検診に関する意識調査の報告について

事務局よりがん検診に関する意識調査について報告（資料3-1）

## 調査概要

無作為調査と受診者調査を実施。

「無作為調査」（目的：本編ページ 6、要領ページ 7）

結果…2208 人からの意見（ページ 20）

「職場での受診機会がない方への対策が必要」

「ポジティブなメッセージを個別に伝えていくこと」

「市のがん検診を受けた人は、検診の質やきっかけを重視している」

「受診者調査」（目的：本編 28 ページ、要領 29 ページ）

結果…がん検診毎に 500 通前後の回答（42 ページ）

「複数の検診を継続的に受ける方を増やす対策が必要」

「受診に関する情報を、継続的且つ簡潔に伝える施策が重要」

「受診手続きの負担感については、そのような意識を払しょくするようなメッセージの工夫が受診率の向上につながる」

受診率向上策の対象について（52 ページ、53 ページ）

受診率意図率と受診率をがん検診種類別、年代別に算出した結果、子宮頸がん検診の優先度が高いことが判明

「提案」（56 ページ）

子宮頸がん検診の若年層に対し、メッセージを工夫した勧奨通知を個別に送り、受診行動や申し込み行動の変化を検証するモデル事業。

「対象」

24 歳、28 歳、24 歳

24 歳・34 歳には勧奨通知と受診券を、28 歳には勧奨通知を送付する。

「対象選定理由」

24 歳：前後の年に受診機会がなく、同行の比較が可能な年齢のため

34 歳：24 歳の比較のため

28 歳：前後の年に受診機会が無く、同行の比較が可能な年齢のため

資料3-2より、今年度のモデル事業の進捗と今後のスケジュール案を説明

事務局：

受診率を向上し、国の掲げる50パーセントの達成には財源確保の問題は避けられないテーマである。自己負担の在り方について、モデル事業の評価や意識調査の結果を反映させながら、保健福祉審議会で検討に入る。

会長：

受診率の向上は難しい問題である。自己負担を取り入れている自治体もあるが、それにより受診率が多少下がってもやむを得ない。がん検診は受診者が高い意識を持って行うものである、受益者負担は必要だと考える。

行政はどう考えているか。

事務局：

さまざまな施策を行い、受診率を上げていきたい。

委員：

受診率と受益者負担の問題は別物である。がん検診と一般検診において、受診者が疾病の早期発見を希望する意識に有意差は見られなくなっていると感じる。がん検診から有料化を導入するというのとは一つの方法かもしれないが、疾病に優劣はない。それよりも、財源が不足していることを正直に前面に打ち出し、健康に多少の経費がかかったとしても受診するよう啓発することが必要なのではないか。

会長：

受益者負担も全て行うのか、選択するのかわ変わってくる。選択するのであれば特別な理由を提示しなければ納得、理解は得られない。がん検診については、納得いくまで協議していく必要がある。

委員：

小平市では乳がん検診を1000円に有料化したことで反対運動が起きた。

委員：

有料か無料かというところに意識が向かうのでそのようなことになる。乳がん検診が1000円というのは高くない。健康維持には対価が必要であり、最低限の自己負担が要すると説明する必要がある。

新たな健康施策について  
資料4をもとに事務局より説明。

会長：

市長の健康づくりに関する意見もすり合わせをしてもらう。健康指導員の創設について具体的には考えているか。

事務局：

取り組んでいる自治体に視察を行う予定

会長：

健康指導員についてはいい考えだが、行政主体でやるのか、ボランティア主体なのかで予算が大きく変わってくるのではないか。

事務局：

予算の面も含めて今後検討させていただく。

会長：

市長も健康づくりに関心を持っていらっしゃるが、財源の問題がやはり大きい。先立つものがなければ計画が立てられず、健康づくりは予算をある程度さく必要があ

る。

検討をしていただきたい。

その他

次回の第2回会議を10月下旬に予定。

その際、新メンバーとなり、委嘱式を行う。